

十字架上の七つのみ言葉による受難日讚美礼拝

日本基督教団相模原南教会では受難週の金曜日3時から表題のような礼拝をしています。一宮禎秀牧師司式、奏楽は夫人の一宮英子姉によるオルガンが響きの良い礼拝堂に厳かに流れます。私には多くを語ることはできませんが、本年は4月17日が復活祭、15日が聖金曜日の受難日讚美礼拝です。毎年不変の式順をたどり讚美歌の歌詞を掲げます。不参加のおゆるしを乞います。礼拝式順から一部のみを記します。

1、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」

ルカによる福音書23章34節。

讚美歌・21-280 馬槽^{まぶね}のなかに (1-121)

- (1) 馬槽^{まぶね}のなかに うぶごえあげ、木工^{たくみ}の家に ひととなりて、
貧しきうれい 生くるなやみ、つぶさになめし この人を見よ。
- (2) 食するひまも うちわすれて、しいたげられし ひとをたずね、
友なきものの 友となりて、こころくだきし この人を見よ。
- (3) すべてのものを あたえしすえ、死のほかなにも むくいられで、
十字架のうえに あげられつつ、敵をゆるしし この人を見よ。
- (4) この人を見よ この人にぞ、こよなき愛は あらわれたる、
この人を見よ、この人こそ、人となりたる 活ける神なれ。

2、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる。」

ルカによる福音書23章43節 (39節~43節)

讚美歌・21-112 イエスよ、みくにに

イエスよ、みくにに おいでになるときに

イエスよ、わたしを おもいだしてください。(2回繰り返す)

3、「見なさい。あなたの母です。」

ヨハネによる福音書19章27節 (25節~27節)

讚美歌・21-303 丘の上の主の十字架 (II-182)

(1)丘の上の 主の十字架 苦しみのしるしよ。

ひとの罪を 主は身に負い 与えたもう、いのちを。

(くりかえし)

世の栄え うちすて 十字架にすがりて
ひとすじに われゆかん み救いに入るまで。

- (2)世の人々 あざけるとも 十字架はしたわし、
小羊なる 神の御子の 苦しみを思えば。
(3)あられずりの 主の十字架、かぎりなくとうとし。
われを赦し きよくするは ただ主の血しおのみ。
(4)悩みも死も なにかはあらん、苦しきもいとわじ。
さかえの朝 待ちわびつつ にないゆかん、十字架を。

4、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ（わが神、わが神なぜわたしを お見捨てになつたのですか）。」

詩篇22篇1節マルコによる福音書15章34節、マタイによる福音書27章46節

讚美歌21-300 十字架のもとに (1-262)

- (1)十字架の下に われは逃れ 重荷をおろして しばし憩う。
嵐吹く時の 岩の陰 荒れ野の中なる わが隠れ家。
(2)十字架の上に われは仰ぐ わがため悩める 神の御子を。
たえにも貴き 神の愛よ はかりも知られぬ 人の罪よ。
(3)十字架の影に われはたちて み顔の光を たずね求めん。
この世のものみな 消ゆる時も くすしく輝くその光を。

5、「渴く。」

ヨハネによる福音書19章28節

讚美歌21-297 栄の主イエスの (1-142)

- (1)栄の主イエスの 十字架をあおげば 世の富、ほまれは 塵にも等しき。
(2)十字架のほかには 誇るものあらず、この世のものみな 消えなば消え去れ。
(3)見よ、主のみかしら、み手とみ足より、恵と悲しみ こもごもながるる。
(4)恵みと悲しみ ひとつにとけあい、いばらはまばゆき 冠とかがやく。
(5)ああ、主の恵みに 応うる道なし、わが身のすべてを 主の前に献ぐ。

6、「成し遂げられた。」

ヨハネによる福音書19章30節

讚美歌21-306 あなたもそこにいたのか (II-177)

- (1)あなたもそこにいたのか、主が十字架についたとき。
ああ、いま思い出すと 深い深い罪に 私は震えてくる。
(2)あなたもそこにいたのか、主が釘で打たれたとき。

- ああ、いま思い出すと 深い深い罪に 私は震えてくる。
 (3)あなたもそこにいたのか、主が槍で刺されたとき。
 ああ、いま思い出すと 深い深い罪に私は震えてくる。
 (4)あなたもそこにいたのか、主を墓におさめたとき。
 ああ、いま思い出すと 深い深い罪に私は震えてくる。
 (5)あなたもそこにいたのか、主がよみがえられたとき。
 ああ、いま思い出すと 深い深い愛に私は震えてくる。

7、「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」

ルカによる福音書23章46節

讚美歌21-311 血しおしたたる (1-136)

- (1)血しおしたたる 主のみかしら、とげに刺されし 主のみかしら。
 悩みと恥に やつれし主の 痛ましきさま だれのためぞ。
 (2)主の苦しみは わがためなり。われこそ罪に 死すべきなり。
 かかるわが身に 代わりましし 主の憐れみは いと貴し。
 (3)慕わしき主よ、わが牧者よ、はかり知られぬ 愛の泉。
 迷うこの身を たずねもとめ 導きましし 日ぞ懐かし。
 (4)主よ、主のもとに 帰る日まで、十字架の陰に 立たせたまえ。
 かくも悩める 主を離れて われはいずこに 去り行くべき。
 (5)懐かしき主よ、はかり知られぬ 十字架の愛に いかに応えん。
 苦しみ悩む わが主のため この身と命 すべて捧げん。
 (6)死すべき者を 贖う主よ、十字架の光 見させたまえ。
 み傷をあおぎ み手によらば いまわのときも やすくあらん。

次に、ウィリアム・バークレイ著「はじめての祈り」より

受難日 朝の祈り

父なる神さま あなたはこの世を愛し
 私たちのために またあらゆる人類のために
 あなたのひとり子を与えてくださったことを
 この日 あなたに感謝します
 私たちの尊き主 イエス・キリストを与えてくださったことを
 また主が十字架に死んでくださったことを
 この日 あなたに感謝します
 主イエスは死にいたるまで
 十字架の死にいたるまで あなたに従順でした
 主イエスは私たちを愛し

私たちのためにご自身を与えてくださいました
主イエスは 失われた者を捜し求め
救うために来てくださいました
主イエスは多くの人々の贖いとして また私たちの贖いとして
ご自分の命を与えてくださいました
神さま この日 このことを感謝します
人がその友のために自分の命を捨てること
人間にとりこれよりも大きな愛はありません
この日 私たちのためにご自分の命を捨てた主イエスの愛を心に留め
また忘れないようにさせてください
私のように罪深い者が
あなたの恵み深い御名を唱えるために
主は血を流し死に十字架の恥をも忍んでくださいました
このことは 不思議な愛です
あなたの愛によってこの祈りをお聞きください アーメン
教会暦による祈り

受難日 タベの祈り

主イエス・キリストよ
あなたは 「わたしがこの地から上げられるならば
すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」と言われました
こよい私たちの目を
あなたの十字架に向けさせてください
あなたの十字架のうちに人間の罪がどのように大きなものであるか
見いさせてください
十字架のうちに罪があなたに対する敵対であること
罪があらゆる美しいものを破壊するものであること
また罪があらゆる愛の敵であることを
見いさせてください
また 十字架のうちに あなたの愛がどのように大きなものであるか
あなたは私たちを愛し すべてのものをも与えずにおかない方であるか
見いさせてください
また 十字架のうちに 罪の恐ろしさを見いだしそして永遠に罪から離れさせてください
また 十字架のうちに 愛の不思議を見いだしそして永遠にその愛に委ねさせてください
このことを あなたの愛によってお願いします アーメン

イースター朝の祈り

主イエス・キリストよ

あなたは この日 死に勝利し死人の中から復活し
永遠に生きる方となってくださいました
主の助けにより あなたの復活の現臨が永遠に私たちと共にあることを
忘れないようにさせてください
あなたは 私たちが困惑する時 いつも共にいて 守り導いてくださいます
悲しむ時 あなたはいつも私たちと共にいて 慰めてくださいます
誘惑あう時 あなたはいつも私たちと共にいて 力づけ
また靈感を与えてくださいます
孤独である時 あなたはいつも私たちと共にいて 元気を与え
友となってくださいます
死の時にいてさえ あなたは私たちと共にいて
バプテスマの水を通して御国に導いてくださいます
あなたの助けにより これらのことを覚えさせてください
この世においても永遠の時にいても
私たちをあなたから引き離すことのできるものは何もなく
私たちはあなたの前で 勇敢に人生に立ち向かい
恐れなく死に立ち向かうことができます
このことを 私たちに確信させてください
このことを あなたの愛によってお願いします アーメン

イースター タベの祈り

私たちの主イエス・キリストよ
あなたの復活の現臨が永遠に私たちと共にあることを
忘れることがありますなら おゆるしください
私たちは あなたに助けを求めないため 自分の仕事に失敗することがあります
また自分ひとりで誘惑に対処しようとするため 誘惑に陥ることがあります
暗やみの中に自分ひとりであると思うため 恐れに陥ることがあります
自分自身の力だけで戦いを戦おうとするため 絶望に追い込まれることがあります
あなたに聞かれ あなたに見られたことを 思い起こして
恥ずかしく思うようなことを言いました行なうことがあります
私たちが あなたが死に打ち勝ったことを忘れるため 死が非常に恐ろしく思われ
また愛する者を失ったことが 耐えられなく思われることがあります
このようなことがありましたなら おゆるしください
「見よ わたしは世の終りまでも いつもあなたと共にいる」と
あなたはお語りになりました
今夜 ふたたびこの言葉を聞かせてください
そして この約束のうちにすべてのことに狼狽しないで
対処する勇気と力とを見いださせてください
このことを あなたの愛によってお願いします アーメン

あとがき

私は、今、信仰の立て直しをしています。み言葉を肉につけたいと松山幸生先生著「ヘブライ人への手紙に学ぶ」を写書しています。大それたことを始めました。33回を毎月1回ずつこのホームページの左のサイドメニュー連載しております。

写真はフランス・トゥール美術館 アンドレア・マンテーニャ作（反転しています）



次ページはパリ通信です。

パリ通信 第124号

はじめに

パリ通信を送ってくださる古賀順子さんがパリでコロナに感染された貴重な経験を投稿してくださいました。今は回復し元気になられています。

コロナウイルスに感染して

3月最後の週末、全身が怠く、くしゃみと鼻水が止まらなくなった。横になっても咳が続け、頭が重く、ふうせんのように膨れているようだった。耳も詰まりよく聞こえない。花粉症アレルギーかと思ったが、まさかのコロナ感染で茫然とした。月曜日近くの薬局で抗原検査を受け、即座に「陽性」結果が出た。

熱と呼吸困難がないので、7日間の自宅療養となった。オミクロン株感染だ。テレビのニュース、新聞、雑誌でオミクロンの感染力はデルタ株の3-4倍あるが重症化しにくいと言われている。軽症だと言われても、実際に自分が罹ってみると話は違う。三日三晩は咳、鼻詰まり、耳詰まりで眠ることができない。頭がボーとして思考力は全くない。病気をすると一人暮らしは不便で心細くなるが仕方がない。人に移す心配はないが、起き上がって水や薬を取りに行くのも一苦勞である。軽症でこれだから、重症の人はどんなにか苦しいだろうとしみじみと感じた。

5日目頃からようやく咳が止まる時間が長くなり楽になった。一日の間に何度か波があり、ウイルスはもう消えたかなと思うときとまた増えていると思うときの繰り返しだった。7日目随分と良くなり、薬局に再検査に行ったが依然「陽性」だった。食糧の買い出しもままならず、仕方なくネット注文・配達で急を凌がざるを得ない。11日目の再々検査でようやく「陰性」となり安堵した。

フランスでは3回のワクチン接種者は薬局やラボラトリーで何度でも無料で抗原検査を受けることができる。そのワクチン接種のおかげで今回の感染がこの程度で済んだのだろうと感謝している。ただし、2回感染した知り合いの医者からオミクロン株は抗体が長く残らないので2・3ヶ月後にまた感染する危険性があると言われ落胆した。

コロナに慣れきって油断していたのかも知れないが、マスク、手洗い、三密を避ける生活習慣に変わりはない。いつ、どこで誰から感染したのか考えてみたがはっきりしない。間違いのないのは周りがマスクをしなくなったことだ。3月14日からマスク着用義務がなくなり、ほとんどの人がマスクを外した。いくら私がマスクを厳守していても、全員がマスク着用していなければコロナウイルスに感染するという事だ。

4月9日のフランス一日新規感染者数は14万人を超えている。ウイルスは依然として流行している。24日大統領決戦投票が終わり、大統領が決まり、ひと段落したら再びマスク着用義務が戻ると言われており、早くそうなって欲しいと願っている。

オミクロン感染の自宅隔離からようやく解放され、久しぶりに外出できたのは4月10日。フランス大統領選第一回投票日である。マクロン現職を筆頭に、ルペン、メランション、ペクレス、イダルゴ、ゼムールら12名の候補者から2名が決戦に残る。20時からの開票速報で投票率75%、決戦投票に残ったのはマクロン現職(28,2%)とマリー・ルペン(23,4%)。5年前と同じ二人である。

2月24日に始まったロシアのウクライナ軍事侵攻で、フランス大統領選は異例の展開となった。通常の選挙活動ができなかったことはマクロン現職に優位に働いたようである。これで決戦投票はマクロン現職の勝利にほぼ間違いないと思われる。フランス納税義務者としてフランスに住んでいる私たち外国人には大統領選挙の投票権はない。フランス国籍者のみに限られる。これから5年間の大切な政治であり、私たち外国人にはマクロン継続で一安心できるだろう。

今回の投票日は晴天の「棕櫚の日曜日」でもあった。教会の前や街角で青々としたツゲの枝葉を買い求める人が目に付いた。イエス・キリストの聖週間を告げる日曜日で「復活祭」がすぐだ。二週間振りに歩いたパリは並木の新緑が美しく、桜が満開で穏やかな春を感じる。コロナウイルス感染から無事に快気できたことを神に感謝するとともに、悲惨な戦争に苦しめられているウクライナの人々に平和で暖かい春が一日も早く来ることを願って止まない。大変深刻な事態が続いているが希望を捨てずに前進できればと思う。

